

雪害対策申し入れ——信濃町・飯山市・栄村

記録的な大雪に見舞われている信濃町では、屋根から崩落した雪に老夫婦が埋まって命を落とすという事故がおきました。除雪など特別な手だてをとらなければ、第二、第三の事故を防止することはできないとして、県に対して雪害防止の緊急対策を申し入れました。申し入れには、信濃町の中村光雄、峯村勉議員と豪雪地の小林喜美治、高橋正治飯山市議、廣瀬進栄村議、中野さなえ衆議院1区候補が参加、石坂県議が同席しました。

申し入れ項目

- ① 雪下ろしや除雪の困難な世帯のための「雪害救助員派遣制度」の充実
- ② 雪害救助員の賃金の改善
- ③ 「雪害救助員制度」の周知をはかること
- ④ 雪害防止上、必要な対策を講じること

また、申し入れの中で、市町村の除雪機購入への助成の増額や排雪対策の充実を求めました。県危機管理室の高山一郎室長は「救助員派遣事業は大事な制度なので堅持していきたい。派遣の回数や予算額に枠をはずさず、被害の実態に応じて補正予算で増額するなど対応したい」と前向きな回答でした。

この制度は、県単独事業であり、特別豪雪地帯の市町村が実施した場合、県は救助員一人に対し、1日8時間を単位として5,500円を上限に補助しています。鬼無里村、戸隠村も該当していました。今年は大雪のため大いに利用されています。

養護学校の医療的ケアに必要な児童生徒に 看護師常駐で対応

長年にわたって「親の会」や共産党が、養護学校で医療的ケアが必要な児童生徒に、看護師を配置してほしいという要望に対して、今年度は看護師を派遣して対応していました。「親の会」などが2月1日、これをさらに拡充して、学校に看護師が常駐できるように、県教育委員会に申し入れを行いました。

県は要望に応じて、来年度から看護師を学校に常駐させることになりました。これにより、いままで修学旅行などの校外学習に看護師が付き添う場合、看護師の旅行費用などが保護者負担となっていたものがなくなります。

申し入れに参加した、保護者や先生などから「長い間要望したことがようやく実って嬉しい。何より、私たちの話を県が真剣に聞いてくれる姿勢が前とは全然違う。」と喜びの声が寄せられました。